北海道立近代美術館リニューアル基本構想（中間報告）【概要版】

① はじめに

➢ 北海道立近代美術館（以下「近代美術館」という。）は、昭和52年（1977年）７月にオープンして以来、本道の美術文化の振興を担い、広く道民に親しまれるとともに、北海道の中核的美術館として大きな信頼と期待が寄せられています。

➢ 一方、築46年となる施設は著しく老朽化が進んでおり、また、美術館を取り巻く状況が大きく変化していることから、このような現状に積極的に対応することが求められています。

➢ この基本構想中間報告は、有識者や道民の皆様の御意見を伺いながら、今後求められる使命や役割など、近代美術館の在り方を整理したものであり、今後、この中間報告を活用して、施設整備方法を検討してまいります。

② 検討の背景

国や世界の動向	■ 博物館法の一部改正 新しい時代の博物館は、文化拠点として国民生活に欠くことのできない施設であることを明確に位置付け。 ■ ＩＣＯＭ（国際博物館会議）による博物館定義の改正 博物館は、有形及び無形の遺産を研究、収集、保存、解釈、展示する、社会のための非営利の常設機関である。 博物館は一般に公開され、誰もが利用でき、包摂的であって、多様性と持続可能性を育む。 倫理的かつ専門性をもってコミュニケーションを図り、コミュニティの参加とともに博物館は活動し、教育、愉しみ、省察と知識共有のための様々な経験を提供する。
北海道教育推進計画	道内の美術館等が文化発信・交流の拠点としてネットワークでつながり、多様な鑑賞機会の拡充や教育普及活動の充実により、子どもたちの芸術に対する感性や郷土の歴史・文化に対する理解の深化、全ての道民が生涯を通じて、身近で気軽に芸術文化活動を楽しめる環境づくりに取り組む。

③ 現状と課題

○：現状　●：課題

1 作品の収集・保存

○「北海道立美術館等作品収蔵計画」に基づき、「北海道の美術」や「エコール・ド・パリ」、「ガラス工芸」等の作品を収集
○ 近代以降の北海道美術の歴史を一望できるコレクションが成立
○ 「エコール・ド・パリ」「ガラス工芸」は、国内有数の充実度
○ 作品は常設展示のほか、館外で活用し、作品に触れる機会を創出

● 収蔵庫等の狭あい化
● 設備等の老朽化に対する収蔵環境の保全
● コレクションの充実や作品修復の促進

2 調査研究

○ 学芸員による調査研究の成果を、多彩なコレクション展や大規模国際展等の企画・展示、図録等で社会に広める
○ 優れた道内作家を見いだし、地域の美術文化の姿を解明
○ 道内の市町村立及び私立美術館に対し、作品等の情報提供や助言

● 調査研究をより深化させるための研究環境の充実
● 自主企画展等、調査研究の成果を還元できる機会の充実
● 研究成果や作品・作家に関する情報などの、デジタル技術を活用したアーカイブ構築と公開・発信

3 展覧会

○ 「北海道の美術」「エコール・ド・パリ」等、テーマに沿った常設展示や国内外の優れた芸術を紹介する大規模な特別展示を実施
○ 美術作品の鑑賞が難しい地域の方々に向けて移動美術館を実施し、多くの道民の皆様に鑑賞していただける機会を提供

● 収蔵作品の活用機会の充実や移動美術館の実施方法の検討などによる鑑賞機会の確保
● 多様なニーズへの対応
● 作品を安定して管理できる環境の整備、展示用什器（じゅうき）の保管場所の充実

4 教育普及事業

○ 子どもから大人まで、美術館を身近な存在として親しんでもらえるよう、講演会やワークショップなどを実施
○ 作品を学校に運び、鑑賞の手ほどきを行う出張アート教室や、授業で活用できる鑑賞学習支援ツールを貸出し
○ 美術関連の図書の閲覧等ができるＡＲＳコーナーの設置

● ＩＣＴの活用や誰もが興味を持ちやすいイベントなど、教育普及事業の工夫
● 講堂のバリアフリー化、映像・音響・照明設備の充実
● 来館者が自由に利活用できるエリア、子どもが学べる場所の充実

5 利用者との関係

○ 近美コレクションは約60%、特別展は約70%の人が満足
○ 展覧会等の広報は、ポスター・リーフレットのほか、情報誌掲載
○ ホームページのリニューアルやＳＮＳを活用した情報発信

● 常設展示室内に階段しかない、トイレが古い・狭いといった現状から、ユニバーサル・デザインへの対応
● ボランティアが活動する場所等の充実
● カフェやレストラン、ミュージアム・ショップ、展示室内外で休憩できる場所など、くつろぎの場所としての機能の充実

6 館運営

○ 道教委の直営
○ 館長ほか職員23名（学芸系職員14名）
○ 一般財源のほか、観覧料・貸館料・施設使用料を財源

● 事業費の縮小
● 団体受入れや、気軽に訪れることができるための駐車場の充実
● 長らく「キンビ」の愛称で親しまれてきたが、多様な時代・ジャンルの展覧会や、収蔵作品の年代の拡大を踏まえた美術館の名称の検討

④ 目指す姿

ビジョン 私たちが目指すもの	北海道立近代美術館は、アートの普遍的価値の継承・発展と、発信に取り組むことにより、 誰もがその豊かさを享受することで、多様な人々が互いを受け入れ、活かし合う、 創造性と活力にあふれる社会の実現を目指します。
ミッション 私たちの使命、役割	○ 北海道の美術文化の中核として、道民に信頼され、親しまれるとともに、 誰もが楽しみ、学び、やすらぎを感じ、人生の豊かさを見いだすことができる場所となります。 ○ アートを介した新たな発見や感動体験により、 人々の生涯を通じて創造力と豊かな感性を育み、刺激し続けます。 ○ 様々な人々や団体と協働し、地域のアートの活性化に貢献するとともに、多様性の尊重や 持続可能性が求められるこれからの社会づくりに向け、美術館としての活動を積み重ねながら、 道民とともに歩んでいきます。

コンセプト
私たちが取り組んでいくこと

ハーモニー	くつろぎの空間としての魅力を向上させるとともに、多彩な展示を通して、個性の異なる誰もがアートに親しむことができるよう、「ユニバーサル・デザイン」の考え方を、ソフト・ハードの両面に取り入れます。また、都心の緑の中にある美術館として、環境に最大限配慮した活動を行いながら、人とアートをつなぎ、文化と自然の調和のシンボルとなります。
コレクション	コレクションは美術館活動の原点であり、すべての人々に向けて開かれた文化と教育の資源です。収集方針に基づきながら、貴重な作品を系統的に収集し、展示やラーニング・プログラムなどに幅広く活用します。また、デジタル・データ化を進めながら、適切な取扱いと環境のもとで大切に守り、次世代へと引き継ぎます。
リサーチ	多岐にわたるリサーチ（調査研究）活動では、各分野における専門性を深めつつ、分野を横断し、総合することによって、アートの価値をさらに引き出し、美術館活動に幅広く活かします。また、誰もが北海道の美術について深く、多角的に学ぶことができるよう、資料のアーカイブ化などに取り組みます。
コラボレーション	アーティスト、ボランティア、学校、企業など様々な人々や団体と持続的な協働体制を構築し、多彩な展覧会を開催するほか、個人の成長・年齢や個性に応じた楽しみと学びの機会の創出を進め、地域の美術文化、美術教育を活性化します。
ウィズ・キッズ	子どもが自ら楽しみ、大人の手を引き何度も訪れたくなる美術館となるような展示、ラーニング・プログラム、ワークショップを企画・実施し、生涯にわたるアートとの関わりの礎を築きます。

⑤ 施設整備の基本的な考え方

（　）内は整備の例

1 老朽化している施設・設備の更新

・外壁や屋根、電気・空調設備等の更新
・点検、メンテナンスや更新が容易な施設設備
・防犯・防災、自然災害への対応

2 収蔵庫（じゅうき）や什器、資料の保管場所などの狭あい化の解消

・コレクションの充実を見込んだ保存スペース
・展示ケース等什器類の保管場所
・調査研究や道民に開放するための資料の保管場所

3 時代の進展にあわせたデジタル技術の活用

・デジタル技術を活用した鑑賞方法の確立
・アーカイブ化対応やデータベースの充実
・道内美術館等の活動情報に関する特設ページ

4 誰もが気軽に利用でき、学ぶことができる開かれた場所

・施設設備、表示等のＵＤ化
・休館中でも鑑賞可能な常設展示スペース
・多機能ルームの設置
・道民の活動スペースの設置

5 多くの人が訪れる、居心地がよく、アクセスしやすい空間

・カフェやレストラン、ミュージアム・ショップなど、美術作品を鑑賞した余韻を楽しむことができる空間の構築
・駐車スペースの確保

6 都心の貴重な緑を生かした環境整備

・緑と調和し、持続可能性に配慮した施設設備
・自然との連続性を感じられる内装や、親子で楽しめるスペース

⑥ 今後の進め方

基本構想の策定に向けて	○ 著しく老朽化している現状や課題への対応、ミッション等の実現に向け、近代美術館の整備方法は「既存施設の改修」「現敷地での新築」「知事公邸等が所在する区域への移転新築」が考えられる。 ○ どの方法も、利点や課題があり、美術館活動への影響や経済性、環境性などが異なることから、「施設整備の基本的な考え方」を踏まえ、それぞれのメリット・デメリットを整理・比較する必要。 ○ 整備方法の選択に当たっては、合理性・客観性を確保できる評価方法を検討するとともに、比較内容について、道民の皆様から御意見を伺いながら丁寧に検討を進め、基本構想を策定。
基本構想策定後	○ 選択した整備方法に基づき、機能や役割を具体化し、施設整備や運営方法に関する基本計画を策定するとともに、ＰＰＰ／ＰＦＩ手法導入を検討。 ○ 運営方法は、美術館活動には高い専門性と信頼性が求められることに留意し検討。 ○ 施設の維持管理や美術館事業の充実に向け、ファンドレイジングや企業等との協働による事業手法などを検討。 ○ スタッフの配置・育成について、ミッション等の実現や来館者のニーズへの対応のため、専門性を備えた人材の配置に向け、美術館活動の具体化に併せて検討。